令和２年度　第４回静岡市文化振興審議会議事録

１　日　　時　　令和３年１月12日（月）　14時00分～15時30分

２　場　　所　　静岡市役所　本館４階　43会議室（葵区追手町５－１）

３　出席者　　（委　員）
遠藤委員、久保田委員、是永委員、佐々木（智）委員、
鈴木委員、田中委員、成島委員、平野委員
（市当局）
中島推進監、萩原文化振興課長、小山課長補佐兼文化交流係長
相羽まちは劇場推進課課長補佐、仲澤施設管理係長、島田主査、
福原主任主事、海野主事
（アドバイザー）
株式会社シアターワークショップ（リモート出席）

４　傍聴者　　なし

５　会議内容　　１　開　会
２　議題
（１）静岡市文化振興計画　後期実施計画　令和元年度実施事業評価　評価総括書について
（２）静岡市民文化会館の再整備について
３　事務連絡
４　閉会

【会議録】

萩原課長	定刻になりましたので、ただ今から、第４回静岡市文化振興審議会を開催させていただきます。 委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、本日の審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 はじめに、本日の会議ですが、委員定数10名のところ、８名のご出席をいただいており、過半数に達していますので、「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」（以下、条例という。）第25条第2項の規定により、本会議が成立していることをご報告いたします。 この審議会は、「文化振興計画の策定及び変更に関すること、文化振興計画の目標の達成度及び効果の検証および評価に関すること、その他、文化の振興に関する重要な事項」の調査審議を行なっていただくために設置されています。 また、本日の傍聴希望者ですが、傍聴を希望される方はいらっしゃいませんでした。 私は、進行を務めます文化振興課長の萩原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 本日は、お手元の次第のとおり、令和元年度実施事業の評価総括書、静岡市民文化会館の再整備の２つの議事についてご審議いただきます。よろしくお願いします。 会議に先立ちまして、静岡市文化振興審議会　平野会長より一言ご挨拶をいただきます。会長、よろしくお願いいたします。
平野会長	みなさま、改めましてこんにちは。 お忙しいところありがとうございます。 小山さんのマスクが気になって。既製品ですか？
成島委員	芹美で売ってるんですか。
小山補佐	作っていただいて、売ってはいないんですけれども。 これで、芹美をPRして行こうかなと思いまして。
成島委員	ほしいですね。
平野会長	いいですね。さすがだなと思いました。

	ところで、皆さん、色んな所でニュースになっているので、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、愛知トリエンナーレが色んな意見が噴出しておりまして、2022年に次の開催ですけども、愛知2022というタイトルに変わったんですよね。それで、今回のものが解決出来たとは思いませんけども、今回のアートディレクター、芸術監督が森美術館の館長　片岡真実さんがされるということを聞きました。 テーマが「Still Alive」直訳すると「それでも生きている」と言ったらいいでしょうか、何かこういう状況にあって、皆さん、特にエッセンシャルワーカーの皆さんとかご苦労が絶えないかと思いますけども、やっぱりそれでも生きている、副タイトルが「今を生き抜くアートのちから」というタイトルらしいんですね。アートのちからって言ったときに、以前坂本龍一さんが、「アートのちからなんておこがましい。そんな言い方するな」みたいな事をコメントしていましたけども、何かやっぱりそこには大切なものが宿っていて、我々に寄り添ってくれるんではないかなと信じながら、こういった委員会で皆さんの貴重な意見を積み重ねていけたらなと思っています。今日はよろしくお願いします。 それでは、会議を始めます。議事の開始にあたりまして、本日の審議会は議事録についても一般に公開することとなっており、議事録の作成にあたっては、会長や委員が内容について確認し、署名することとなっています。署名者として二人必要ということですので、私のほかに、今回は鈴木委員にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。
鈴木委員	了承
平野会長	よろしくお願いします。それでは、次第に沿って進めてまいります。 議題1「静岡市文化振興計画　後期実施計画　令和元年度評価総括書について」事務局より説明をお願いします。
福原主任主事	それでは、資料1の静岡市文化振興計画　後期実施計画　令和元年度評価総括書をご覧ください。 令和元年度評価総括書につきましては、前回の審議会にて言い回しの修正等ご指摘いただいた箇所を修正し、ご承認いただいた内容に反映してあります。こちらをもって「静岡市文化振興計画　後期実施計画　令和元年度評価総括書」として赤字

	部分を黒字に戻した上でホームページ等に公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。 　また、第３回までの総括で、現計画に不足している新たな視点も見えてきておりますので、この新たな視点を新計画にどう落とし込んでいくか検討が必要になります。 　令和３年度の審議会では、これまでの審議の中で洗い出された現行計画に不足する視点や文化芸術振興基本法から文化芸術基本法への法改正、SDGｓへの取り組み等を踏まえた上で成果指標の項目の検討から審議し、基本的施策・基本目標に視野を広げて見直しを行っていきたいと考えています。 　成果指標の検討と併せて市民を対象としたアンケート調査も実施いたしますので、アンケート項目の検討も同時進行で行っていきたいと考えております。 　委員の皆さまの方でもメモ程度で構いませんので、いくつかの成果指標について案をご検討いただき、イメージを持っていただければと思います。 　　説明は以上です。
平野会長	ありがとうございました。これに関しましては、今まで皆さんに揉んでいただきましたので、今事務局からの説明がありましたとおり、赤の部分を墨に変えまして、案を取ってご承認をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。
各委員	了承
平野会長	よろしいでしょうか。ありがとうございます。 　では、事務局にてそのように進めてください。よろしくお願いします。 では、２つめの議題に入らせていただきます。議題２「静岡市民文化会館　再整備について」事務局より説明をお願いします。
島田主査	静岡市民文化会館再整備についてご説明いたします。 　前回の審議会におきまして、静岡市民文化会館再整備に係る基本理念について審議いただき、年末のお忙しい時期に、事前課題として委員の皆さまからアイデアをいただきました。大変多くのご意見をいただくことができました。ありがとうございました。今回は、皆様からいただいた意見を紹介するとともに、まとまった文章・コピーを完成させるのは難しいと思いますので、そこから共通した方向性、キーワードを見出していくことや、どのような表現とするのがよいか、についてご審議をお願いしたいと思います。

	審議の前に、配布資料に基づいて説明を致します。 前回、市民ワークショップについてご説明しましたが、第3回目を12月18日に開催しましたので、まずその概要を説明致します。 資料8「第3回ワークショップ資料」、資料9「ワークショップかわら版」をご覧ください。 前回ご説明しましたが、第1回は「建物の改修」について、第2回は「広場の改修」について議題としました。第3回は、「新たな市民文化会館に、どんな風に関わっていく？」と題し、生まれ変わる文化会館において、「何をやりたいか」、「活動しやすくするためにはどんなことが必要か」、「静岡市民文化会館での市民参加のかたちは」について意見交換を行いました。詳しい説明につきましては、基本計画等策定業務の受託者である株式会社シアターワークショップからご説明致します。 本日は、東京の方ですので、緊急事態宣言もあってリモートで出席となっています。 よろしくお願いします。
㈱シアターワークショップ	では、かわら版をもとに簡単に説明を申し上げたいと思います。先程も説明があったとおり、建物、広場と検討が進んできまして、次年度以降に繋ぐにあたって、地域の文化の担い手として、どれくらい市民の方々が関わっていこうと思っていらっしゃるかをお伺いしたくてこのような課題でワークショップをさせていただきました。政令市ですから、小さい地域のように市民参加を密接にということが正直難しいところではございますけれども、大道芸フェスのお陰でサポーターとして色々取り組むことに慣れている方もいらっしゃったり、自分は鑑賞者として関わっていきますよという方、利用者として関わっていきますよという方、色々いらっしゃいました。 話題の２にいきまして、参加するにあたって、活動するにあたってどのような機能を求めるかというところについても、利用者として来館者として来るにはバリアフリーであったり入りやすいルールであったりを求める声があったのと、あとはＳＮＳでどうやったら参加出来るのか、参加できるよという事そのものも発信していってほしいよという意見が多くみられました。最終的に静岡の静文の市民参加ってどういうことですか、という事については、何かしらの「達成感」ですとか「価値創造」ということに繋がってほしいということと、あとは、ＳＮＳによって参加メ

	ニューを拡げてほしいし、伝えてほしい、そこには若者も関わってそれで知ることで幅広い世代に参加してほしいという声が多くみられました。 あとは、ＳＮＳだけで繋ぐのではなくて名物館長のような方がいて、あの人が面白いから付いていこうというような、運営者の魅力をもって引っ張っていくというようなことを求められる声もありました。 簡単ではございますが、以上でございます。
島田主査	ありがとうございました。 次に、事前に皆さまに提出いただきました基本理念に関するご意見につきまして、資料に基づき説明致します。 まず、資料5、たくさんあって恐縮ですけども、「基本構想における基本理念　意見一覧」をご覧ください。 これは、委員の皆さまからいただいた意見を羅列したものです。多くの意見をいただきありがとうございました。1. は基本理念に取り入れるべき考え方、フレーズ、単語等いわゆるキーワードについて、意見をいただいたものです。2. は、基本理念のコピーについて、アイデアをいただいたものです。3. につきましては、文化会館のネーミングについて意見をいただきました。ネーミングについては、大変重要なものでありますが、今年度に策定する基本構想・基本計画において定めるものでないため、今後の課題とさせていただきます。 1. 2. につきまして、それぞれをグループ分けしたものが資料3「基本理念に取り入れるべき考え方、フレーズ、単語等」 資料4「基本理念（案）」です。それぞれのアイデアについて、共通する言葉や、性質から、分類しております。文化・芸術、創造、にぎわい・交流、歴史、市民生活・福祉といった分類としております。さらに、これらを合わせて分類したのが、資料2「基本理念についてのご意見の整理」の「1. ご意見（質問1・2）のなかで多くみられた表現」になります。これらの意見につきまして、裏面の2. ご意見全体から伺える方向性において、整理しております。 読み上げますと、 ・気軽に様々な人が来ることでの集い、交流、学びの促進を求める ・前項に加えて、劇場側が主体的にさまざまな世代、環境にある人のくらしに文化芸術を通じて寄り添っていく福祉的な側面を求める（＝劇場法に通ずる考え） ・文化芸術固有の価値の振興については、従来以上に先進的な、創造的な取り組みの場

	となることを求める ・取り組みにあたり、「駿府、駿府城、三の丸」という周辺エリアとのつながり、「ふるさと静岡」「まちは劇場」といった地域の個性・政策の発信を重視する ・上記のようなことを通して、誇れる創造都市の形成をはかる と意見を集約しております。 　説明が大変長くなりましたが、本日審議いただきたいこととしましては、「3．ご検討いただきたい点」に記載しましたが、これらの意見を踏まえ、コピーのようなまとまった言葉でなくとも、共通した方向性、キーワードを見出したいと思います。概ね委員の皆さんと方向性は異なっていないと考えておりますが、どのような表現とするのがより良いか、ご意見をいただきたいと思います。 　最後ですが、資料6「創造的改修のポイント　意見一覧」、資料7「改修のポイントの整理」につきまして、多くの意見をいただいております。本日は時間の都合上、一つ一つの意見をご紹介することはできませんが、市民ワークショップ等の意見と併せて、基本構想・基本計画に反映していきます。 　資料のボリュームが多くなりましたが、本日の審議の参考にしていただければと思います。 　静岡市民文化会館再整備の説明につきましては以上です。
平野会長	ありがとうございました。皆さんの今の説明でひととおり目を通せますか。ちょっと時間を取った方がいいですか。5分程度資料に各自目を通していただけますか。結構ボリュームが多いので。この段階で何か確認しておくことはありますか。今の説明では飲み込めないとか。よろしいですか。では、少し資料に目を通してください。 ―資料確認― 　はい、ではもしかすると途中で考えていただく時間を取るかもしれませんけど、一旦ここで共有の時間を作りたいなと思います。 　どこから入ろうか、私も初見なので悩んでいるんですけど、資料3の「基本理念に取り入れるべき考え方、フレーズ、単語等」ここの部分で、何か皆さんインクが濃く見える部分ってありますか、このフレーズ、この単語、これってすごく大事なキーワードだよね、これからこのフレーズなくしては、共有しなくてはまずいよねというかぜひしたいなとか、そう言ったところで何か光フレーズがあればご意見頂戴したいなと思いますが、いかがでしょうか。 　是永委員、何か下に線が引いてありますが、いかがでしょうか。

是永委員	自分と合っているようなものに線を引いたんですけど、「静岡市」という語呂が「駿府」で置き換えられるというのが、優位性があるというか、「駿府」というのは静岡市を代表する言葉ですから、その辺がネーミングとしてはいいかなと感じました。 あとは、「いつも何かイベントがある」とか「足がそっちの方に向かう」とか「文化の基地」がそこにあるというかそこら辺が集約されればいいかなと感じました。
平野会長	ありがとうございます。他はいかがでしょうか。 これが、フレーズになって動き出すとまた違うニュアンスになってきたりする場合もありますが。 せっかくなので、遠藤委員から順番に気になるワードを紹介していただいてよろしいでしょうか。
遠藤委員	にぎわい･交流のところで、文化･交流の拠点というところは抑えられたらいいなと。歴史のところで象徴している「三の丸」という言葉は僕は結構好きで、名前にこれを乗せるとちょっと違うイメージで新しい、しかも歴史を踏襲したようなそんなイメージが定着できるかなと思っています。まぁ、単純にかっこいいなと。
平野会長	スケール観というか、ちょっとエリアを含めたニュアンスも意識していくというところになりますかね。ありがとうございます。久保田委員お願いします。
久保田委員	是永さんが仰られたとおり「駿府」という言葉はぜひ、という事と、あと、駿府城という言葉ですかね。これがすごく重要じゃないかなと思っているのが１つと、あとは、何だかんだ言って「まちは劇場」がどこかで強く出るべきなんじゃないかなと思います。これまでずっと続けてやっていらっしゃる事ですし、これからもするつもりというのが出てもいいかなと。この２つはぜひ。
平野会長	なるほど、ありがとうございます。 佐々木委員はいかがでしょうか。
佐々木委員	私も駿府城と三の丸はあるといいのかなと思います。 もちろんまちは劇場も何かしらの形で関わっていくものだと思いますので。 あと、場所と空間のところの「五感を醸成する空間」これは世代に関係なく必要な事かなと思うので、こういったものが出てくるといいかなと思います。

平野会長	ありがとうございます。鈴木委員よろしいですか。
鈴木委員	私はやっぱり文化芸術で、「静岡の文化活動を支える拠点施設」、「誰にとっても文化が身近に感じられる場所」、前回の時に上野に行くと色んな文化施設があって、文化に触れているという優越感を感じられるという話をしましたが、そういうのが静岡にもあっていいんじゃないかと思って「静岡の文化活動を支える拠点施設」、「誰にとっても文化が身近に感じられる場所」こんなものが入るといいかなと思っています。
平野会長	ありがとうございます。田中委員いかがでしょうか。
田中委員	私は意見にも書いたんですけど、「唯一無二の」という前回からの他の方の意見にもありましたけど、それをぜひ入れてほしいです。そういう意味では「駿府城」とか「三の丸」とかぜひ入れてほしいです。ただ、一般的に知られている「市民文化会館」も全国に数多あるでしょうけど、どこかに小さく入れるのも必要じゃないかなと思います。
平野会長	それがネーミングに入ってくるのか、基本理念に入ってくるのかは別として、こういうキーワードは重要だなというご意見ですね。ありがとうございます。 成島委員いかがでしょうか。
成島委員	私は、イメージとして駿府城と市民文化会館が一体として捉えられるようなイメージの方が人が行きやすいというか、行き交うようになればいいなと思っています。そういう意味では、「駿府城」という言葉が入ればいいなと思います。資料３の中では、ＨＵＢという言葉が２回出ているので、そういった仲介役というか、そういう役割を果たすという事が求められているのかなと考えました。
平野会長	はい、ありがとうございます。 今挙げられていないものの中にも重要なものがあるかもしれませんが、それも視野に入れながら、皆さんのお話を伺っていると、ネーミングにどう反映されるのか、基本理念に入ってくるのか、あるいは、ネーミングを支えるようなサブとしてのフレーズで出てくるのか、「駿府城」ですとか「三の丸」というような場所を表すものと、機能を表す、歴史を表す、こういったキーワードが重要だというご意見をいただきました。あとは、成島委員が仰った「ＨＵＢ」、ここにあるんだけれども、必ずしも中心にある訳ではなくて、公園やまちなどチャネルが変わるように何

	かと何かを繋げていく、ジャンクションのようなイメージも持ったらどうか、そんなご意見もあったり。あるいは、誰にとっても文化が身近に感じられるような場所であり、文化活動の拠点施設であるという中心として見る見方もあったかと思います。そういうところでは、いつもここでは何かが繰り広げられている、そういった場所であってほしいというようなご意見もいただきました。 そういった中で、今度はフレーズの方を見ていただきたいです。 資料4になってきますけど、ここで皆さんが挙げていただいたフレーズとか単語がこの中で活きているようなものをご指摘いただけないでしょうか。この基本理念の最終的な落とし方というのは、必ずしもワンフレーズにならなくてもよいんですよね。分かりやすいのが一番かと思いますけど、2段に構えて見せている会館もあったかと思います。資料3と資料4を踏まえてこんなフレーズがいいんじゃないか、あるいはここを変えたらいいんじゃないかというご意見を伺いたいです。
鈴木委員	私は「市民に愛され、誇りとなる芸術文化の拠点となるホール」こういう事だと思うんだけどね。ちょっと長いかな。
平野会長	文化芸術の欄ですよね。基本となる共通するテーマになりそうですね。 我々は、もしかすると、基本理念を考えるときに、方法としてまず基本理念を考えていくという方法もあるかもしれませんが、ある程度ネーミングを想定する中で、そこから基本理念が湧き出していく、そういう方法もあるかと思います。今日はネーミングを決める会議ではないので、仮にという事にはなりますけど、そういう発想の中から基本理念の重要性を想定してみる発想の仕方もいいのかもしれません。
久保田委員	一つグッと来たんですけど。市民生活・福祉のところにある「市民一人ひとりの人生の隣にある劇場」というのがグッときましたね。自分の店がLifeTimeなので。人生の隣にあるって、誰が考えたのかなと、ちょっとグッときました。
平野会長	手を挙げていただいてもいいですけど。確かに、文化芸術っていうのは直接私たちに何かしてくれる訳ではないけど、寄り添ってくれる存在だっていう考え方もありますよね。市民一人ひとり関わる人によって捉え方は違うんだけれども、一人ひとりの人生、生き方、価値観、そういったものに寄り添う、隣にある劇場である、そういった事をこのフレーズは表しているような気がします。

成島委員	先程から駿府城とか三の丸の言葉が多く出ていて、歴史を感じさせるような、歴史を大切にするような言葉が組み込まれればいいなと思っていて、「互いに世代を超えて学び継承する場」、「継承」という言葉がいいかなと思いました。 中々「歴史」の部分が館としての活動の基本理念にどう落とし込めるか、今までも会館としての活動があって、今回リニューアルという中で、ある一定時間を共有できるようなものが入ってくるとよいかなと思いました。
平野会長	なるほど。歴史の重層性、今生きている世代の中にも重層性があり、そこを兆しにしていけるようなフレーズ「互いに世代を超えて学び継承する場」、非常に歴史を大切にしている、世代を超えて互いの価値観を認め合って共有していく、そういうことを感じさせるようなフレーズがいいのではないかという事ですね。歴史は、コロナ禍においても見直されて、その中から色んな事を学び取っていこうという事が実際の社会の中で行われている、そのことを踏まえてみると、今こういったフレーズがこれからも継承されていくべき考え方なのかなという気がします。ありがとうございます。
遠藤委員	私の方では、文化芸術の「市民に愛され、誇りとなる芸術文化の拠点となるホール」というのをちょっと変える形で、「市民に愛され、誇りとなる芸術文化の象徴となるホール」、まず愛されることと、文化芸術の象徴となったらいいなと思ったので、ちょっと組み合わせを変えたりしてみました。
平野会長	「市民に愛され、誇りとなる芸術文化の象徴となるホール」ですね。
遠藤委員	そうですね。まぁ、ホールとするのか広場とするのか劇場とかもありますけど、その辺はちょっと置いておいて、象徴となったらいいなと思いました。
佐々木委員	私は、文化芸術の「苗床」とか、「花開く」とかが成長していく過程のように思ったので、ここに行くとだんだんと心が豊かになっていったり、まちが賑わっていったり、すべてが前向きになるもので、その他のところの「世界的視野からの芸術創造拠点を目指し、すべての市民が集う広場となり、街の賑わいを持続的に創出する。」ってお腹いっぱいな状態ですけど、まちが賑わうというよりは、静岡市民とか、静岡に住んでいる人が持続的に感性を磨いたり醸成したり継承していく場所となったらいいのではないかというのをどういった言葉にしたらいいか分からないです。

平野会長	持続的というのは、ＳＤＧｓでも強調されているというか、それそのものなので、ここのフレーズは気になるところですね。それから「苗床」、「花開く」は成長していくイメージですよね。こういった比喩の中にもヒントがあるかもしれませんね。 僕の好きなフレーズに、「種は蒔かれるものではなくて零れ落ちるものだ」というのがあるんですけど、蒔かれた種は弱くて、自然に湧き出していく、自らが学んで、自らが種を蒔いていく、それが苦境とか自然災害とか有事の際に強い文化芸術の人間が、あるいは植物が育つんだという事をちょっと今思い出しました。
鈴木委員	さっき遠藤さんが言った「象徴となる広場」、これもいいなと思いました。
平野会長	遠藤委員のご意見でちょっとだけ確認というか、「象徴」となる場合に、割とこのホールというか劇場が中心となるようなイメージがあると思うんですけれども、先程成島委員が指摘してくださったような、ＨＵＢとなる場合に必ずしもここが象徴となる訳ではなくて、「人生の隣」というような、何か一緒くたにしながら一緒に成長していくというようなものが「ＨＵＢ」というものにはあると思うんですけども、その辺りで微妙にどうしたらいいのかなというような考えが感じたところです。必ずしも象徴という言葉が悪い訳ではなくて。確かに象徴になっていくと、いつもよりどころとなって、そのような事も考えられますので。何かそこについてご意見いかがでしょうか。
遠藤委員	先程成島さんも仰っていたんですけど、駿府城公園と一体とした感じで思いつくのが井の頭公園とか行くと、カフェがあったり、動物園があったり、「訪れたいな」と思うようなバラエティーに富んだものがあるものですから、駿府城公園と文化会館が繋がっているようなイメージで誘導出来たらいいなと、出たり入ったり出来たら面白くなるなと、そういった意味ではＨＵＢというイメージに繋がっていったらいいなとは思っています。
平野会長	なるほど。
久保田委員	よろしいですか。さっきの話の中で駿府城とか三の丸とかいう「お城」だとかいう言葉が出て来ていますが、実はその辺っていうのは一般の人からすると権威を感じるんですね。今まで市民文化会館っていうと割と平たいイメージがあったと思うんですが、そこに「駿府城」という言葉が入ると…まぁ私はそれに賛成した上で書

	いてはいるんですが、「この印籠が目に入らぬか」的な状態になることもあるんですね。自分自身が浮月楼やってるんでよく分かるんですけど、「浮月楼・徳川慶喜公屋敷跡」なんて言うと自分が行くところじゃないなんてしょっちゅう言われちゃうんです。そういうのをずっとやってる感覚から言うと、「駿府城何とか」なんて言うとそれだけで「私たちが行くところじゃないよ」なんて言われてしまう可能性もあるんですよ。でも逆にそこのところをこの基本理念で柔らかくしてあげないといけないんじゃないかなと思います。「誰でも来ていいよ、あなたのすぐそばにいるよ」なんて事を言った方がいいんじゃないかなと僕は思うんですけど。意外と「葵」とか「徳川」とか強いんですよ、イメージが。今までずっと何十年もそれに縛られてきたので分かるんですけど。一応そこだけは意見として感じます。
平野会長	なるほど、はっとしました。当たり前のように思って使っていますけど。
鈴木委員	そうなんだ。
久保田委員	割とそういう人はいらっしゃる。
平野会長	ゆえに、久保田さんが「市民一人ひとりの人生の隣にある劇場」というのが響いた理由が分かりました。 田中委員、いかがでしょうか。
田中委員	皆さんの意見もすべてごもっともで。でも、理念やワードは出ていると思うんですね。それを文章にくっつけたり仕上げるのが結構大変なんですよね。モザイクみたいに何もかもぶち込んでも訳が分からなくなってしまうので、どこかで割り切らないとならないので、優先順位でワードを絞って、ですね。自分がこれをまとめろと言われたら頭抱えてますよ。
是永委員	あと、この「劇場」と「ホール」ってイメージとしてホールだけになっちゃうと僕らがやっている展示場は入るのかっていう問題になっちゃうし、そこだけのネーミングは「劇場・ホール」というのは分かりやすくしたいなと、色んな事を詰め込もうとしているんだから、そこら辺を総称出来る言葉がいいなと思います。
平野会長	確かにね。そういう意味では、「会館」という言葉が馴染んできたんですかね。
是永委員	「会館」というと少し硬いから、もう少し何か柔らかい言い方がないかなと。 施設自体はホール中心に作られるでしょうけど、そうじゃない部分も大切にしてほしいなっていう感じですね。

平野会長	実際、基本理念の中にホールとか劇場という位置関係はきっちりとしていなければいけないとは思いつつも、基本理念の中には「空間」であるとか「場所」であるとかそういう言い方もしていけるかなとは思いますけど。いずれにしてもどういう位置付けに置いていくのか、どういう場所なのかというのは一言で入れる方が分かりやすいかもしれませんね。この中でも「場」と言っている方もいれば、「ホール」あるいは「劇場」という言い方にしている方、いくつかの呼び名がありますね。
久保田委員	そうですね。ここに「広場」があって、「回廊」があって、「劇場」があって、「行き交う広場」、「苗床」があって、「殿堂」があって、「空間」があって…いっぱいありますね。 私は、平野さんがお出しになった中で「回廊」という言葉が行き交う場所という意味ではいい言葉だなと思いました。
平野会長	ここの皆さんの意見を大事にしなければならないのは十分承知なんですが、捉える言葉みたいなところって、今まで色々な資料が出てきていますけど、何かを言葉にしたときの適格に言い表すようなイメージっていうのは固まった形でありますか。
中島推進監	固まってはいません。皆さんと同じで要素としていれなきゃいけないなと思うものは、思っているし、今お話に出たように相反する要素も入っているんですね。 今、あまり権威的な名前っていうのは功罪あるよっていうお話で、まさにそういう事だと思います。 ひとつだけ、僕らがすごく反応しているのは、劇場法が「新しい広場」という常葉を持ち出して、劇場の事を説明しているものですから、その「広場」っていう言葉を直接使うのか、「新しい広場」、新しいコミュニティを作るというそういう意味だと思うんですけど、そのまま使うかは別として、今の要素はその言葉の中に入っているなと思っています。
平野会長	広場っていうのは、広場一言だけでもものすごい歴史のある単語ですから、神社だって、境内だって広場だって捉える研究者もいますし、様々な日本文化というか世界の文化が詰まっているキーワードではありますね。
中島推進監	もう一つ、是永委員の意見に近いと思うんですけど、今まで消費する側だった、安くいいものを見てくださいっていう話だったんですね。もちろんそれもありなん

	ですけど、作っていく、一緒に作っていく場に変わっていくだろうなという感覚は持っていて、公共のホールだから安く色んなもの見られていいねっていうところの次のステージに行っているだろうなという事は思っています。それが展示とかクリエーションの部分とかで一緒に考えて行きましょうというのがまさにそれで、劇場そのものがそうなっていくと思います。
平野会長	消費者っていうと経済学の用語から日常で使われる言葉になっていますけど、我々は消費だけして生きている訳ではなくて、常にクリエーションして生きている訳で、消費者って言われた途端に、私は何か嫌な気持ちになるんですね。
中島推進監	そうですね。市民が消費する側だという考えは終わりにしたいんですね。作る側でもありますので。だから「隣の」っていうフレーズに惹かれたというのはそういう観点で、近い感覚ですね。
平野会長	最近、エシカル消費って言葉がありますけど、一つの単語の中に矛盾するキーワードが入っちゃってるなっていう感じがありますけど、消費だけではなくてクリエーションもしている考え方は非常に重要かなと思います。
中島推進監	最初ワークショップの紹介をしていましたけど、３回あるうちの１回は「あなたはどう関わりますか」という事に使っている訳で、そのくらい日常の中でどう付き合ってくれますかというところがありますので、そういう事をイメージできるような方向が見られるといいのかなと思います。ワークショップの方向もそうなっているので。
久保田委員	あと一つよろしいですか。広場っていう話の中から、神社もそうだよっていう話が出た中で浮かんだ話なんですけど、昔久能山東照宮の宮司の落合さんが仰っていた話なんですけど、神社って何ですかって話をした中で、彼が言うには非常に面白い事を言っていて、神社っていうのは「焚火」だって言うんですよ。何にもないところに誰かが薪を持ってきて火をつけるんですって。何もない広場に。そうするとあそこで火がついているからって誰かが薪をまた持ってきて火をくべるんです。そして、次の人がまた持ってきてくべるっていう、焚火がずっと火のついている状態が神社だっていうんです。誰かが薪を持って来なくなっちゃうともうなくなっちゃうんです。薪を持ってき続けているから何百年も続いている、と彼は言うんですけどね。日本の神道はそういう風に出来ているんだよと彼は言っていたんですけど

	ね。そういう風な感じで、実際には劇場に来たことよりも、そこから先を少しずつ作っていくとか、誰か寄らせるとか、教えるとか、そういったものをやっていってようやく出来ていくんだよというところを入れていってくれると、じゃあ行くかなという風になるのかなと思いますけどね。
平野会長	心温まる話ですね。そうですね。
遠藤委員	ちょっといいですか。フレーズを誰に向けたターゲットはどこにするかというのを考えると、静岡市民でも隣は焼津市民があって、藤枝市民があって、例えば浜松、三島、県外、海外、そういった方々に向けた名前の方がいいのか、市民に愛される事を前提につける方がいいのかっていうのを絞るかどうするかというのは考えた方がいいかなと思いますけど。
平野会長	メインターゲットは何なのかというのを一旦整理するのはいいかもしれないですけど、それについては、やはり今までの資料を拝見していると、やはりメインは静岡市民という事になりますでしょうか。
中島推進監	市民って言い切っちゃうと、中枢都市としてあれなので…。 まちは劇場が大きく３つの目標で動いているんですが、１つは、創造都市、文化芸術の力で、それを活かして地域経済とかまちを元気にしていく経済寄りの話と、もう一つは、市民がどういう風に幸せを感じられるか色んな人が幸せになれるかという要素と、もう一つは、まちの創り方を人間中心に変えていきましょうという、それが劇場を飛び出して、道路とか公園とかも含めてそういう形で目標を持っているんですけど、コロナ以降、やっぱりＣＭを大量に流して興味を引くほどのお金もないものですから、そこはファンベースで、ファンを増やしていくしかないなと思っています。ファンに向けてきちんとメッセージを送って、ファンがファンを広げてくれると、そのファンの一番最初にくるのは、やっぱり市民じゃなきゃいけないなと思っていて、そこからどういう風に裾が広がるようにデザインしていくかという。最初のターゲットはやっぱり市民かなと思いますけど、そこから広がる事をイメージしています。
平野会長	最近ターゲットというものを考えるときに、年齢別とか性別とか住んでいる場所だけではなくて、「こういう価値観を持った人」っていう切り方もターゲットにはあるかと思うんですね。市民をメインに置きつつ、更にこういう価値観を持った人

	そういったところで少し網目を濃くするやり方もあるのかなと中島さんのお話を伺って思いました。
中島推進監	これだけの施設ですから、多元的に引っ掛かりそうなものをいくつも持っていなければいけないと、どこに引っ掛かってくれるかは別なんだけど、そういうものがいくつかあるようなプランにしていかなきゃいけないなと思っています。 かと言って、ＳＰＡＣさんのように劇団を持っている訳ではないので、そこはきちんと棲み分けて行く必要があると思いますけどね。芸術監督なんていう意見も皆さんの意見から出ていましたけど。
平野会長	これは、今日は、皆さんの意見を聞いて、事務局と私が一度いただいた意見を整理をして、二案なり三案なりをご提示してそれを叩いていただくというその方が進みやすいですかね。今のターゲットを含めて整理して。
中島推進監	そうですね。委員の皆さんがどういったお考えをお持ちかまずお聞きする事がすごく重要だと思っておりますので。
萩原課長	はい、そんな形でよろしくお願いします。 私も今日皆さんの意見をお伺いして印象的だったのが、もちろん、文化会館の再整備なので、文化芸術のところにいいキーワードがあるよという話も出たんですけど、それと同じように市民生活とか福祉の部分で、市民の皆さんに寄り添うようなそういったキーワードを感じていただいた事が印象的でした。私たちもそういった新しい文化会館を考えているものですから、ただ単に文化公演に興味がある人ばかりではなくて、全然今まで興味がなかった人が、ちょっと寄ってみようだとか、ここだったら自分の居場所があるとかそういった新しい機能が出来るといいねというのを私たちの中でも考えていたので、今日委員の皆さんにもそういったご意見をいただいたものですから、その辺の今日の意見を踏まえまして、ある程度固めてまた見ていただければよろしいかなと思っています。
平野会長	焚火に例えて言うなら、今ソロキャンプというのが流行っているじゃないですか、ソロキャンプやっている人って、本当に一人でやっている人ばかりではなくて、キャンプ場の中の皆がいるところでソロキャンプしていると、隣のあの人はこんなものを大事にしている人だなとか、価値観とか空気みたいなものを空間の中で共有しながらソロキャンプしている訳じゃないですか。その焚火性というか…

久保田委員	ワークショップも見させていただいて、何回かの中に入っていたと思うんですけど、表側のところが芝生になりますよというのが２回目か１回目に出て来て、非常にいいなと思っていますし、そこに人が集ってまさに広場的な感じになると思うんですけど、それと同時に、この間10月か11月の終わりに青葉イベント広場でやらせていただいたときに、静岡ライブミュージックアソシエーションっていう団体の会合がありまして、この話をしたら、彼らがぜひお願いしたい事がひとつあって、それは、野外に演者のところだけでもちょっと屋根がある形で、舞台があって、そこで何かできる、若干の音響機材とかもあってくれると、いつでも何かすぐに出来るような状態、いくつかそういうのがある街があるんですよね、そこでこちらの方は芝生でダラダラ見ていると、そんなものを作ってくれるとすごく嬉しいと、ぜひ言ってくれと言われたものですから、ワークショップで少し出ていたと思うんですけど。
中島推進監	そのつもりでいます。広場も劇場という考えで、財団の方で寒い時にコンサートをやってくれたのもその実験なんですね。どういう風に出来るか、ライブとかをやる時にコストを下げたいので、最低限が用意されていないとコストがかかってしまうので。広場を含めて劇場、なので、大・中・小・展示場だけじゃなくて、野外も含めて劇場があるとそれを広場リンクと呼んでいますけど。
平野会長	他に皆さんいかがでしょうか。何かこれだけは共有しておきたいという事があれば伺いたいと思いますけど、いかがでしょうか。 今のこの議論っていうのは、シアターワークショップさんも聞いていらっしゃるんですか。何かご意見というか、アドバイスをいただければ、山下さん。
㈱シアターワークショップ	資料２でまとめの案みたいに書かせていただいたのものをこちらで出させていただいたんですけども、今日お話しをお伺いする中で、「殿堂」みたいなこともありながら「寄り添う」みたいな側面をたくさんの方がご意見くださっていたので、いつも何かあって、いつもそばにいるような、そういう事かなというところでもう少し上手い言葉を次にご提案できたらいいなと思っておりました。
平野会長	ありがとうございます。
成島委員	殿堂の方向なんでしょうか。文化の殿堂というような方向なのでしょうか。立派なものというそういう方向でしたっけ？

平野会長	必ずしもそういう訳ではないですね。今日の話し合いで言えば一人ひとりの人生に寄り添うような存在であるような、決して殿堂とは。
成島委員	たぶん、どちらかというと避けた方が、今まで劇場と言うと文化の殿堂みたいに位置づけられてきたけど、次のステージのところで展開している、可児のアーラみたいなところも、人間の家みたいな感じで出しているところもあって、おそらく今度のリニューアルされた市民文化会館が、創造的な場所という役割を果たしていくと言えども、大きな看板をそこに出す必要はないのかなと、今までの議論から思っているので。
平野会長	大きな看板というのは…
成島委員	「ここが文化の殿堂です」というようなそういう意味での看板です。
平野会長	そういう意味での大きな看板ですね。
成島委員	どちらかというと、顔を変え、形を変え、触れあっていく場所かなと思っています。色んな関わり方の人が、今回３回目のワークショップでやっていただいたような鑑賞者での立場でもあるし、何かもっと深くコミットする場所でもある、そういう色んな段階がある、可能性が持てる劇場になっていくのかなと思っています。
平野会長	なるほど。そういった意味のスケールのイメージもありますよね。 それは重要な部分ですよね。コンセプトとも結びつきますし、基本理念とも結びつけなければいけない部分かと思います。
中島推進監	40 年前に造った市民文化会館が殿堂スタイル。本当に最高のものを造ろうと言って造ったのが 40 年前。今って何だろうっていう。
平野会長	田中委員すみません、そういう意味では、美術館とか博物館建築なんかも、一時は入ると大きいホールがあって迎えたんですけど、今はどこからでも入れるみたいな、まさに広場みたいな感じですよね。
田中委員	設計段階から、常に人が流入して交流するようなことをイメージしていますけどね。まぁそういう時代なんでしょうね。場所も、大学もそうでしたけど郊外型から全部都市型、やっぱりその方が人が使いやすいという事ですよね。
平野会長	そうですよね。
中島推進監	外観が残るものですから、どれだけ柔らかくするかが設計上の勝負ですね。

	張り出して増築したいと言っている、ガラスの部分が縁側みたいになるかならないか勝負でしょうね。
田中委員	そうですね。割と堂々としていますよね。
中島推進監	そうですね。列柱を置いてますからね。権威の象徴ですよね。裁判所とか列柱をやりますから。列柱を置くって事は権威的なデザインにしたという事ですから、それを少し壊してあげないと。
平野会長	そうですね。ひととおりよろしいでしょうか。 もしよろしければ、今いただいた意見をもとに、二案なのか三案なのか分かりませんが、案を作らせていただいて、それを叩くという形でよろしいでしょうか。 次回になるとネーミングまで踏み込んでいく形になるんでしょうか。 もちろんここだけで決定する訳ではないと思いますのが…　案を練っていくときに…そこは事務局と私の方で話せばよいですかね。
中島推進監	どこまでまとめていくかあれですけど、今何となく委員の皆さんの話を聞いて、こっちの方向性だなというのは見えたので、それが見えただけで全然違うので、そこから先どこまで絞り込むかはちょっと相談させてください。
平野会長	分かりました。 では、この議題については、皆さんからいただいた意見を案にしていきたいと思います。 ３つめ、事務局から連絡という事で、お願いします。
萩原課長	平野会長ありがとうございました。 それでは、これで予定しました議事はすべて終了いたしました。 ご協力ありがとうございました。 今回の審議内容等に関するご意見やお気づきの点がありましたら、事務局までご連絡をお願いできればと思います。 また、次回令和３年度になるんですけども、第１回目の開催は、６月頃の開催を予定しておりますが、そちらについては、また改めて日程調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

	ちょっと先になってしまうんですけれども、その前にまたまとめた資料をお送りします。集まりは今のところ６月で、その前にご意見はお伺いさせていただくかもしれません。
島田主査	会長からもお話があったんですけど、今日いただいた意見を会長とまとめさせていただきまして、皆さんにまた文書やメール等々でご意見をお出ししていただくやり取りを今年度中にやらせていただきますので、準備が出来次第、皆さんに通知させていただきますので、よろしくお願いします。
萩原課長	ご意見等はお伺いする事もあると思いますが、よろしくお願いします。 今のように集まっていただくのは、６月頃を予定しておりますので、よろしくお願いします。 一件告知をさせていただきたいんですけど、皆さんのお手元に「まちは劇場って何なんだ会議」というチラシを分けさせていただいていますので、推進監からお願いします。
中島推進監	迫っての告知で恐縮ですけど、今更「まちは劇場って何なんだ」って何をやってるんだって言われそうですけど、中々「まちは劇場」っていい考えなんだけど、概念なので、それが感覚的に伝わってないなっていう悩みがありまして、ここでオペレーターの石神夏希さんという劇作家の方とご縁があって、その方が企画をしてこれをやります。このご時世ですので、スノドカフェを会場にしますけど、会場の人数は絞って、オンラインでご覧いただくという形をとっています。裏面見ていただくと、前半はシズオカオーケストラの井上さんや、オクシズの冨田さん、蒲原で新しい形の宿泊施設なんかをやっている牧田さんみたいな人がトークをしたあと、２部で静岡と若干ご縁のある日比野さん、それから、静岡の委員もしていただいている島原さん、東京都で文化政策をやっていらっしゃった今村さん、この人たちが「まちは劇場って何なんだ」を読み解くという形で進行されると思います。冒頭で僕が 15 分間だけ振りをして、そのあと 1 部で３名の方にお話をいただいて、「まちは劇場って何なんだ」という話を２部でしていただく形です。 1 月 22 日来週の金曜日ですね、18:30 からという事です。どんなになるかまだちょっと先行き分からない企画ではありますけど、ぜひご視聴いただければと思っています。よろしくお願いいたします。

萩原課長	こちらの方、よろしくお願いいたします。 それでは、以上をもちまして、令和２年度第４回静岡市文化振興審議会を終了させていただきます。 本日はお忙しいところありがとうございました。

令和３年３月31日

静岡市文化振興審議会会長

平野雅彦

議事録署名人：審議会委員

鈴木實